

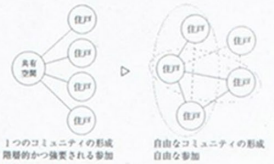
第3回NEG空間デザイン・コンペティション<ファイアライト>

現代人のための集合住宅

人が集まって住むことのメリットは、他人とふれあう機会を多く持つことができることである。このため、従来の集合住宅では共用部分に豊かな空間が求められることが多かった。

しかし、多くの交際関係を持ち、複数のコミュニティへ自由に参加している後らにとっては、コミュニティへの固定的な参加（あるいは参加の強要）が求められるロビーや集会所などのような共用空間は、もはや避けるべきである。

求められるものは、本人の都合に合わせて自由な形でコミュニティを形成し、自由な形で参加することができる空間であろう。ここでは、直接的なふれあいを避けることも多くの人々様々なコミュニティを形成することができ、その中で個人の自由は尊重されつつも互いに影響を与えることになろう。

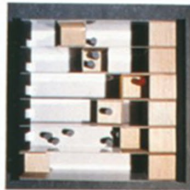


まず、大ガラスの板を平行に配置し、各住戸の仕切りとする。個々の住戸にはキッチンとユニットバスよりなる固定式の設備ユニットと、ベッドと家具よりなる可動式の家具ユニットが置かれる。これらにより、各住戸は最低限のプライバシーが保証される一方で、残りの空間は全て、他の住戸と一体となって見通せるようになる。

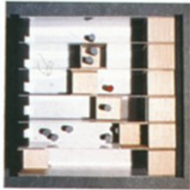
家具ユニットにはグレーチングの可動式戸および扉が設置され、可動式のロールスクリーンも天井に据え付けられる。これらの仕切りはいずれもガラス面に対し直交に配置されるため、自らを覆い隠すことはできないが、家具ユニットを移動したりグレーチングや扉を開き、ロールスクリーンを調節することにより各住戸は自由に空間を創作することができる。例えば、帰宅してきたあなたには隣家の次のような行動に対しても、右のように多くの行為が保証されている。



帰宅してきたあなた



風呂に入り、寝る



こっそりユニット休養をする



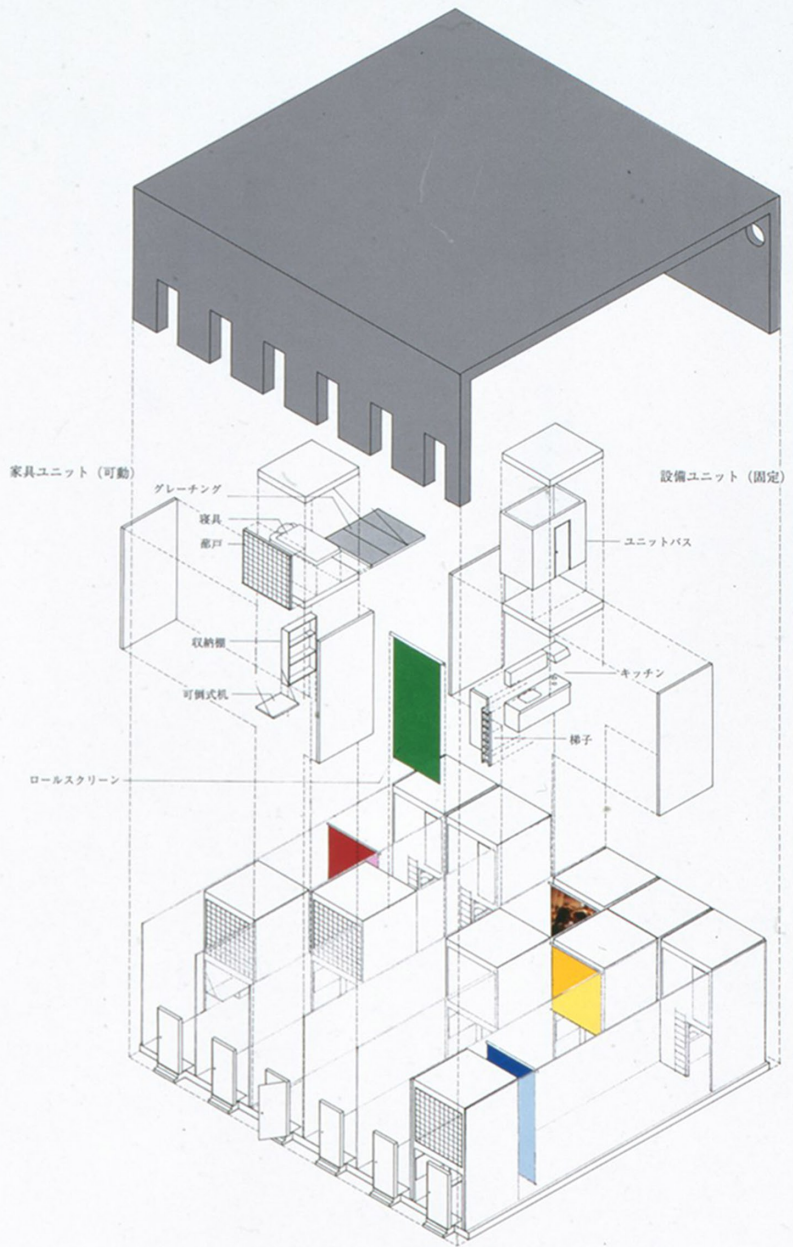
通り上りの露顔先に光気つけられる



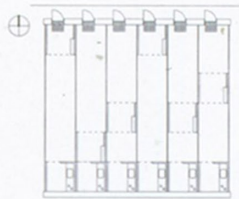
映画を見て感動する

ここには住人の数だけの生活があり、超こりうる組み合わせは無数になるが、いずれの場合でも、コミュニティの形成は自由であるし、そこへの参加の形も自由である。無論あなたの行為に対する反応も返ってくるが、それは、相手の自由である。

しかし、全ての住人は必ず何らかの形での住民へ影響を与え、また多くの住民はそれらを利用することになる。すなわち、人が集まることのメリットを最大限に活かした生活が行われる。



Isometric S=1:80



1F PLAN S=1:200



2F PLAN S=1:200

